



文化庁委託事業

平成29年度 劇場・音楽堂等基盤整備事業 報告書



劇場・音楽堂等 スタッフ交流研修事業 (国内交流研修)



THE ASSOCIATION OF PUBLIC THEATERS AND HALLS IN JAPAN
公益社団法人全国公立文化施設協会

平成29年度 劇場・音楽堂等基盤整備事業 報告書

劇場・音楽堂等スタッフ交流研修事業(国内交流研修)

目次

国内交流研修報告 ①実務者派遣事業

神奈川県民ホール 》 兵庫県立芸術文化センター	2
大垣市スイトピアセンター 》 世田谷パブリックシアター	5
国立劇場 》 世田谷パブリックシアター	8
とうほう・みんなの文化センター(福島県文化センター) 》 岩手県民会館	10

国内交流研修報告 ②インターンシップ事業

山梨大学 》 コラニー文化ホール(山梨県立県民文化ホール)	12
大阪経済大学 》 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール	15
新潟大学 》 長岡リリックホール	17
昭和音楽大学 》 りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館	19
鳥取大学 》 松江市八雲林間劇場(しいの実シアター)	22
大阪市立大学 》 八尾市文化会館(プリズムホール)	24
上野学園大学 》 東京芸術劇場	27
神戸大学 》 兵庫県立芸術文化センター	30

国内交流研修報告 … ①実務者派遣事業

派遣元

神奈川県民ホール

(公益財団法人神奈川芸術文化財団)

[神奈川県横浜市]



研修生 川上 綾夏



受入先

兵庫県立芸術文化センター

(公益財団法人兵庫県芸術文化協会)

[兵庫県西宮市]



研修期間

平成29年7月21日(金)～平成29年8月4日(金)のうち 計12日間

研修概要

全国有数の拠点劇場である兵庫県立芸術文化センターにおいて、多種多様な自主事業の現場での体験を通じて制作のノウハウ習得を図る。

- 自主制作オペラ公演、地域巡回オペラ公演
- バレエ公演
- ワンコイン・コンサート
- バックステージツアー 等

日程・実施内容

実施日	内 容
7月21日	兵庫県立芸術文化センター概要レクチャー(永富部長、土井副部長) 『フィガロの結婚』開場立会い、公演鑑賞、終演後サイン会列整理
7月22日	オペラ制作レクチャー(古屋事業専門員) 兵庫県立芸術文化センター概要レクチャー(林ゼネラルマネージャー) 『フィガロの結婚』開場立会い、終演後サイン会列整理
7月23日	兵庫県立芸術文化センター施設見学 『フィガロの結婚』開場立会い、終演後サイン会列整理 巡回公演準備
7月25日	『フィガロの結婚』姫路公演 仕込み立会い ケータリング準備、補充
7月26日	『フィガロの結婚』姫路公演 ケータリング準備、補充 バラシ立会い 楽屋、ケータリングの片付け

7月27日	『フィガロの結婚』篠山公演 仕込み立会い ケータリング準備、補充、片付け
7月28日	『フィガロの結婚』篠山公演 仕込み立会い ケータリング準備、補充、片付け
7月29日	『フィガロの結婚』篠山公演 ケータリング準備、補充 楽屋準備 バラシ立会い
8月 1日	「バレエ・スプリーム」舞台打合せ チラシ挟み込み準備 見切れ席確認
8月 2日	「ワンコイン・コンサート」打合せ 会場設営 開場立会い 公演鑑賞 サイン会立会い 片付け
8月 3日	中ホール、小ホール見学 『デストラップ』開場立会い 「バックステージツアー」体験ツアー
8月 4日	「バックステージツアー」公演立会い

研修生の所感

神奈川県民ホール 川上 綾夏

■研修の目的

兵庫県立芸術文化センターのマーケティング戦略や、年間300本以上の自主事業をこなしている制作現場を実際に体験しノウハウを習得することで、弊ホールにおける今後の事業に活用していくとともに、自身のスキルアップを目的としました。

■研修の内容と成果

自主制作オペラ公演、地域巡回オペラ公演のスタッフとしてオペラの制作現場を中心に、バレエ公演、ワンコイン・コンサート、バックステージツアーと多種多様な公演の制作現場を体験させていただきました。全体を通して感じたことは、各セクションと良い連携が取れているということです。各々自分のやるべき仕事を把握していて、情報共有もしっかりとされている、スタッフひとりひとりに余裕が感じられる現場という印象を受けました。

その中で制作の仕事は全体の把握、この仕事はどのセクションに任せればよいのか、問題が発生しても出演者には慌てた様子を見せず余計な心配を与えずに対処する等、現場の雰囲気を作るムードメーカー的役割を担うポジションなのだとこの研修を通して学びました。

また、ご来場されたお客様から「久しぶり」「あなたも来ていたのね」など、まるで同窓会のような会話が聞こえてきて、劇場がそのような場になっていて素敵だなと、お客様(地域)に愛されている劇場なのだと感じました。このような劇場にするために様々な工夫、仕掛けがありました。登録無料の会員制度、ジャンルが豊富な公演、地域と連携したイベント、県民性を考慮、ターゲットを絞った事業展開、終演後のサイン会、電車の遅延情報の掲示等々、細やかなところまで気遣いがされていました。他にも公演をシリーズ化することで一過的ではなく永続させ、質の良いコンサートを提供することで、出演者が好きだから、演奏曲が良いからだけではなく、このシリーズだから来たというお客様が増えていく。お客様との信頼関係を築いていく仕組みがしっかりとできていますと感じました。

人気のあるアーティスト、演目も大切ですが、お客様に来ていただく仕組みを作ることが開かれた劇場への第一歩なのではないかと思いました。

■研修をこれからどう活かしていくか

これから制作をするときには今回の研修で感じ、学んだことを心がけて業務を行なっていきたいと思います。私がいることで現場の雰囲気良くし、スムーズに進むお手伝いができればと思います。そして行く行くは、あの人が制作なら安心だと思ってもらえるような制作者になれるよう精進して参ります。また、神奈川県民ホールでもシリーズ化されている公演はありますが、それがお客様に浸透しているのかはわかりません。チラシのデザイン等で同シリーズだとわかるような工夫をすればシリーズのファンができるのでは、安定した集客が期待できるのではと思いました。このような観点を持てたことはこの研修の賜物だと思います。今後もこの研修で得た知識、経験を色々な場面で活用させていきたいと思います。

受入施設より

兵庫県立芸術文化センター 土井 博雅

短い研修期間だったが多彩で多様な公演現場の研修となった。

プロデュースオペラは西宮での公演のほか、県内展開として姫路市、篠山市の公演にも出張してもらった。また、入場料が500円のワンコイン・コンサートから10,000円を超えるバレエ公演まで、公演制作、入場者の違い、ちょっとした工夫を体感していただけた。

今回の研修で得た経験を活かして、これまで以上にお客様を楽しませていただければと思う。

国内交流研修報告…①実務者派遣事業

派遣元

大垣市スイトピアセンター
(公益財団法人大垣市文化事業団)
[岐阜県大垣市]



研修生 黒田 麻起子



受入先

世田谷パブリックシアター
(公益財団法人せたがや文化財団)
[東京都世田谷区]



研修期間

平成29年8月18日(金)～平成29年9月3日(日)のうち 計14日間

研修概要

- ・「日野皓正 presents Jazz for Kids」
- ・「MANSAI●解体新書」
- ・「NEVERENDING STORY～まちがいのコンドルズ～」

上記3事業に関わるワークショップやリハーサル等、準備期間から本番までの現場における業務を補助し、直接携わることで自主製作事業のノウハウを学ぶ。

日程・実施内容

実施日	内 容
8月18日	日野皓正 presents Jazz for Kids リハーサル
8月19日	日野皓正 presents Jazz for Kids 日野皓正 Quintet Live 本番
8月20日	日野皓正 presents Jazz for Kids Dream Jazz Band 13th Annual Concert 本番
8月22日	MANSAI●解体新書 仕込、制作①・照明①・広報 各レクチャー
8月23日	MANSAI●解体新書 本番、フロントレクチャー
8月24日	MANSAI●解体新書 バラシ、票券レクチャー
8月26日	NEVERENDING STORY～まちがいのコンドルズ～ キッズダンスワークショップ、レクチャー「舞台芸術のクリティック」聴講
8月27日	NEVERENDING STORY～まちがいのコンドルズ～ キッズダンスワークショップ
8月29日	NEVERENDING STORY～まちがいのコンドルズ～ 仕込、照明②、制作② 各レクチャー
8月30日	NEVERENDING STORY～まちがいのコンドルズ～ 場当たり

8月31日	NEVERENDING STORY～まちがいのコンドルズ～	公演1日目
9月 1日	NEVERENDING STORY～まちがいのコンドルズ～	公演2日目
9月 2日	NEVERENDING STORY～まちがいのコンドルズ～	公演3日目(2回公演)
9月 3日	NEVERENDING STORY～まちがいのコンドルズ～	公演4日目

研修生の所感

大垣市サイトピアセンター 黒田 麻起子

■研修の目的

(公財)大垣市文化事業団に所属して8年目、事業課に配属されてからは2年目になりますが、これまで、他館の運営方法等について知る機会がなく、内部での引き継ぎのみで日々の業務や舞台運営業務を行ってきました。そのため広い視野が持ちにくく、現在の運営方法が最適なのかどうかも判断できない状況にありました。そこで、他の会館において、特に今回は中央の先進的な劇場で主に事業制作の現場について学習したいと思い、この研修に参加させていただきました。

■研修の内容と成果

14日間の研修内で、ジャンルが異なる3つの主催公演に携わらせていただきました。日野皓正さんによるジャズ公演、野村萬斎さんによるトークパフォーマンス、コンドルズによるダンス公演とワークショップ。それぞれの現場につかせていただき、補助作業を行う中で講義だけでは理解しにくい実践的なことを学ぶことができました。そしてそれは運営業務だけでなく、出演者への気配りであったり、スタッフ間のやり取りを感じて学ぶことができる場でもありました。さらに、業務を行う中で感じる疑問点や運営方法についてその場で聞き、教えていただける研修期間であったことをとても有難く感じています。例えば物品販売についての扱い方、チラシやポスターの作成の仕方、チケットについての扱い方など、作業をするだけでなくその運営側の意図等についても理解を深められました。

その他、日々の業務について朝の打合せから撤収まで参加させていただく中で感じたのは、関係スタッフ間の連絡がとても密にあるということです。全体打合せの他、常に情報を共有し、あらゆる状況にスタッフ全員が対応することができる環境にあったことが印象的でした。また、何か予期しないことが起きた時、トップの方の素早く的確な判断と指示があり、業務が混乱することなく進行されていると感じることが多くありました。

その他、事業の研修とは別で、制作、照明、広報、票券のレクチャーを受けました。それぞれの現場スタッフから受けるレクチャーは、直接業務に繋がられるような実践的なことがとても多く、十分な知識を得ないまま行っていた日頃の業務について再認識し直すことができました。

■研修をこれからどう活かしていくか

研修させていただいたことを私個人の日頃の業務に活かしていくことはもちろんですが、せたがや文化財団の運営方法、世田谷パブリックシアターの現場やそれについて感じたことを、大垣市文化事業団のスタッフに伝え、得られた知識を共有したいと思います。その中で当事業団で改善できることや、取り入れられること、参考にできることを皆で探していきたいです。

世田谷区と大垣市では地域に根付いた文化やそこに住む人、施設や物理的にできることやできないこと、会館スタッフ数など、当然ですがさまざまな点について大きく異なります。開催される事業の規模も違います。実際、今回の研修で見えた世田谷における業務をそのまま当てはめて実施できないことが多いのが実情であるかもしれませんが、変えられることを一つずつ変え、立ち止まったときはこの研修を思い出しながら、少しずつ着実に大垣市文化事業団に貢献していけたらと思います。

そして、今後、世田谷パブリックシアターの公演を大垣で行わせていただくなど、この研修が何かの形となることを期待しています。

今回はありがとうございました。

受入施設より

世田谷パブリックシアター 大下 玲美

すでに、経験も豊かな方でしたので、事業の現場でのより実践的な実習をしていただきながらも、今後の地域に根差した公共ホールの発展のため具体的に事業を実現させるために必要なことは何であろうかという議論にもおよぶ内容となりました。熱意をもって研修に参加してくださり、大いに学びとってくださっているように感じました。ご所属館の大垣市サイトピアセンターと他の公共ホールとの今後の連携についても、貴重な意見交換を行うことができました。今後の大垣市サイトピアセンターでの活躍を期待しております。お疲れ様でした。

国内交流研修報告…①実務者派遣事業

派遣元

国立劇場

(独立行政法人日本芸術文化振興会)

[東京都千代田区]



研修生 菊地 美伯



受入先

世田谷パブリックシアター

(公益財団法人せたがや文化財団)

[東京都世田谷区]



研修期間

平成29年8月22日(火)～平成29年9月3日(日)のうち計11日間

研修概要

世田谷パブリックシアター主催公演「MANSAI●解体新書」及び「NEVERENDING STORY～まちがいのコンドルズ～」の公演及び公演準備を通じ、公益財団法人せたがや文化財団の事業理念が実際の公演制作においてどのように実現されているかを学び、理念を具体化させるためのノウハウを学ぶ。また、公演を成功させるために、制作担当者は何に注意し、どのように行動するべきかを学び、事業計画を実現し、成功させるための能力を養う。

日程・実施内容

実施日	内 容
8月22日	MANSAI●解体新書 仕込、制作・照明・広報 各業務レクチャー
8月23日	MANSAI●解体新書 本番、物品販売補助、フロント業務レクチャー
8月24日	MANSAI●解体新書 楽屋片付け、票券業務レクチャー
8月26日	NEVERENDING STORY～まちがいのコンドルズ～ 子どもワークショップ立会い、レクチャー「舞台芸術のクリティック」聴講
8月27日	NEVERENDING STORY～まちがいのコンドルズ～ 子どもワークショップ立会い
8月29日	NEVERENDING STORY～まちがいのコンドルズ～ 楽屋業務補助
8月30日	NEVERENDING STORY～まちがいのコンドルズ～ 楽屋業務補助、 舞台稽古見学、制作業務レクチャー
8月31日	NEVERENDING STORY～まちがいのコンドルズ～ 公演1日目 楽屋業務補助、票券業務補助
9月 1日	NEVERENDING STORY～まちがいのコンドルズ～ 公演2日目 楽屋業務補助、フロント業務補助

9月2日	NEVERENDING STORY～まちがいのコンドルズ～ 公演3日目 楽屋業務補助、ワークショップ参加者補助
9月3日	NEVERENDING STORY～まちがいのコンドルズ～ 公演4日目 楽屋業務補助

研修生の所感

国立劇場 菊地 美伯

■研修の目的

日本芸術文化振興会は多くの事業を抱えているが、公演事業は当振興会の根幹を成す事業の一つであり、国立の劇場としての理念を如何にして魅力的な舞台芸術として昇華させるかは重要な課題である。区立の劇場である世田谷パブリックシアターにおいて、事業目的が実際の事業にどのように落とし込まれ、個別の公演制作が行われているかを学び、国立の組織として、魅力ある事業の計画及び運営を行うことのできる視点を養う。

■研修の内容と成果

今回の研修では、芸術監督の野村萬斎氏自らが出演する「MANSAI●解体新書」、ワークショップに参加した子どもたちが、出演者としてオープニング・アクトを務める「NEVERENDING STORY～まちがいのコンドルズ～」の2公演の制作業務に立ち会わせていただいた。また、制作、舞台照明、広報、フロント、票券の各業務についてレクチャーを設けていただき、各担当者から直接お話を伺った。

研修後半の「コンドルズ」公演は、通常の舞台に加え、小学生対象のワークショップを公演化させるという、普及事業を公演事業に昇華させた企画であった。ワークショップは約1ヶ月(週末)と長期にわたり、公演期間中も通常の業務に加え、子どもたちに細心の注意を払わなければならない。期間中の稽古場・人員の手配、保護者への対応等、非常に多くの労力が費やされていた。本番中に子どもたちが見せた笑顔は、関係者としては勿論、一観客としても心に迫るものがあった。公演という作品の創作に参加し、表現する喜びを得られたのでなければ、あのような笑顔で踊ることはなかっただろう。芸術活動に参加してもらう意義を感動と共に実感した。

また、今回の研修では楽屋での制作業務を補助する機会を多く頂いた。出演者や劇場の職員だけでなく、一つの公演には様々な立場から多くの人が携わっている。何が必要とされているか、常にアンテナを張り、あらゆる立場の相手と目線を同じくして行動する洞察力と柔軟性が求められていた。真摯に向き合っているかを強く問われた現場であった。

■研修をこれからどう活かしていくか

今回の研修は、公共の立場から舞台芸術に携わる覚悟を、改めて問い直す機会となった。ワークショップを公演という作品にする、本来困難な企画を行うには、何があっても受け止めるという、相当の覚悟が必要だったはずであり、時間と労力を惜しみなく割いたからこそその成功であったはずだ。今回の公演で子どもたちが得たであろう深い喜びは、腰を据えて事業に取り組む覚悟あってこそのものである。楽屋業務のような作業そのものは些細な仕事であっても、求められたのは相手に真摯に向き合う姿勢であった。この姿勢・覚悟はあらゆる事業に通ずることではないだろうか。当振興会は様々な事業を抱えているが、どのような事業であっても真摯に取り組み、事業の目的を達成できるよう、ひいては舞台芸術そのものに貢献できるよう、常にアンテナを張り続けたいと思う。

受入施設より

世田谷パブリックシアター 大下 玲美

ご所属する国立劇場とは、性質の異なる世田谷パブリックシアターでの研修でしたので、実践的な現場でのテクニックに加え、当劇場の事業の多様性、地方公共劇場の果たすべき役割について、さまざまな角度から体験して頂けるよう研修内容を組みました。大変に実直かつ勤勉な態度で、熱心に参加してくださいました。伝統芸能を中心とした公演事業を展開する国立劇場から、日本芸術文化振興会のさまざまな事業まで、今後の貴重な人材として活躍して下さるものと思います。お疲れ様でした。

国内交流研修報告 … ① 実務者派遣事業

派遣元

とうほう・みんなの文化センター
(福島県文化センター)
(公益財団法人福島県文化振興財団) [福島県福島市]



研修生 山野辺 徹



受入先

岩手県民会館
(公益財団法人岩手県文化振興事業団)
[岩手県盛岡市]



研修期間

平成29年9月6日(水)～平成29年9月11日(月) 計6日間

研修概要

オーストラリア大使館連携「学校訪問演奏会」及び岩手県民会館自主事業「いわて JAZZ 2017」公演の制作・実施方法を学び、自身の財団における自主事業制作等に活かす。

日程・実施内容

実施日	内 容
9月6日	オーストラリア大使館連携「学校訪問演奏会」に係る打ち合わせ
9月7日	オーストラリア大使館連携 学校訪問演奏会 in 岩泉 実施
9月8日	オーストラリア大使館連携 学校訪問演奏会 in 久慈 実施
9月9日	岩手県民会館自主事業「ビッグ・バンド・フェスタ」 実施
9月10日	岩手県民会館自主事業「いわて JAZZ 2017」本公演 実施
9月11日	上記行程終了に係る打ち合わせ

研修生の所感

とうほう・みんなの文化センター(福島県文化センター) 山野辺 徹

■研修の目的

現在、私は福島県文化センターにおいて技術職員として勤務しているが、自身の業務の幅を広げるためオーストラリア大使館連携「学校訪問演奏会」及び岩手県民会館自主事業「いわてJAZZ 2017／ビッグバンドフェスタ」における制作者研修を受け、ツアー先でのアーティストのケア、訪問学校への対応等及び「いわてJAZZ 2017／ビッグバンドフェスタ」において公演プロデューサー及び制作者が行う仕事を補助することで、制作者としての現場での仕事を学び今後の当財団での自主事業等に活かす事を目的とした。

■研修の内容と成果

今回研修を受け入れていただいた岩手県民会館では、東日本大震災当初よりいち早く復興支援に駆けつけていただいたオーストラリア大使館と連携して岩手県内の学校を訪問し、子供たちに本物のジャズを聴いてもらうという事業を行っていた。今年2016年8月の台風10号により多大な被害を受けた岩泉町と久慈市の学校を訪れ、訪問演奏を行った。学校では搬入経路、体育館の状況に関わらず時間割通りに演奏を始める必要があった為、全員で協力してセッティングにあたった。その成果もあり、どの学校でも子供たちは真剣に音楽に聞き入り、心からの拍手を送っていた。また子供たちからアーティストへ向けてのプレゼント等もあり、国際交流にも一役買っていたように感じた。

また、いわてJAZZ 2017本公演では出演者が主に海外アーティストという事もあり、楽屋内の作り方やケータリングの内容などにも気遣いが必要なことを学んだ。その成果もありアーティストの方々は気持ち良く本番を迎えられ、ご来場いただいたお客様を楽しませていた。

■研修をこれからどう活かしていくか

今回の学校訪問演奏会、いわてJAZZ 2017で学んだ制作・運営方法は自分の今後の業務内容にプラスになる事ばかりであった。特に海外アーティストの対応については今後当財団でも参考にさせていただきたいと思った。

また今回研修を受け入れていただいた岩手県文化振興事業団の方々には年間非常に多くの自主事業を運営しているが、それぞれが分担して仕事をしつつ目指す目標は全員で共有しているという理想的な形になっており、そのことが出演者にとっても来場者にとっても良い環境を提供しているという事がわかり、今後自主事業を行う上で特に活かして行きたいと感じた。

受入施設より

岩手県民会館 本波 敏

福島県文化センター井課長から「研修生は音響担当者なのですが、いろいろな現場を経験させたいのでよろしくお願ひします」と連絡を受けて、「制作の現場に入ると大変かも」と勝手に心配をしていましたが、誰よりも早く行動し、積極的にコミュニケーションをとる姿勢から、研修への意気込みと意欲を感じました。この研修を通じ、お互いの制作ノウハウを共有することで、ジャズ公演だけではなく新しい連携が生まれることを望みます。

国内交流研修報告…②インターンシップ事業

派遣元

山梨大学

教育学部 芸術運営コース

[山梨県甲府市]



研修生 片岡 紗那、横森 千佳



受入先

コラニー文化ホール

(山梨県立県民文化ホール)

(アドブレーン・共立・NTT-F 共同事業体)

[山梨県甲府市]



研修期間

片岡 紗那 平成29年7月19日(水)～平成29年12月10日(日)のうち 計10日間

横森 千佳 平成29年7月19日(水)～平成29年11月5日(日)のうち 計9日間

研修概要

コラニー文化ホールの自主制作のアウトリーチ公演(多ジャンルコラボレーション公演、ミュージカル公演)と自主公演(海外のアンサンブル公演、第九演奏会)の制作、運営補佐を通じてホールマネジメントの基礎を習得する。

日程・実施内容

山梨大学 片岡 紗那

実施日	内容
7月19日	舞台の基本知識・技術研修
10月14日	ウィーン木管五重奏団 本番
10月22日	ミュージカル シンデレラ オケ合わせ
10月29日	ミュージカル シンデレラ 通しリハーサル
11月 2日	(アウトリーチ)北杜市須玉ふれあい館 ミュージカル シンデレラ 設営
11月 3日	(アウトリーチ)北杜市須玉ふれあい館 ミュージカル シンデレラ 設営
11月 4日	(アウトリーチ)北杜市須玉ふれあい館 ミュージカル シンデレラ リハーサル
11月 5日	(アウトリーチ)北杜市須玉ふれあい館 ミュージカル シンデレラ 本番、撤去
12月 9日	山梨県民第九演奏会 設営、リハーサル
12月10日	山梨県民第九演奏会 ゲネ、本番

研修生の所感

山梨大学 片岡 紗那

■研修の目的

- 公演の制作や運営の実務の体験を通じて、こういったスケジュールや仕事の内容があって公演が出来上がっているのかを知る。同時に、必要とされる資質や能力についての理解を深める。

■研修の内容と成果

- 事前の準備・設営・運営などを限られた時間の中で行うと同時に、出演者やお客さんへの配慮も必要で、周りを見て状況判断して行動し、気遣いができることが大事だと知った。
- 一つの舞台が、議論や試行を繰り返して良くなっていくところを見て、関わっている一人ひとりの熱意や技術、発想力も求められると知った。
- プロの演者や歌手以外に、一般の方が演技や歌を勉強して出演する公演プログラムもあり、人材育成に力を入れていることを知った。「やってみたい」と思っている、技術や経験がないから、と諦めてしまう人がいる中で、こういった場は貴重だと思った。また、一つの公演で地域の方とホールが直接関わり、支え合っていてできているところを目の当たりにして感銘を受けた。

■研修をこれからどう活かしていくか

- 素早く状況判断をして行動する力をしっかりつけたい。
- 現場を見て、想像以上にその仕事の大変さを知ったとともに、楽しさや充実感を感じてより関心が高まった。
- 芸術が人の心を豊かにすることを身近に感じられたので、芸術普及に関わっていきたい。

日程・実施内容

山梨大学 横森 千佳

実施日	内 容
7月19日	舞台の基本知識・技術研修
8月 2日	(アウトリーチ) 富士吉田市ふじさんホール 創作舞台インテグレイテッドシアター「HAPPY」の制作補佐
8月 3日	(アウトリーチ) 富士吉田市ふじさんホール 創作舞台インテグレイテッドシアター「HAPPY」の制作補佐
10月14日	ウィーン木管五重奏団 本番
10月22日	ミュージカル シンデレラ オケ合わせ
10月28日	ミュージカル シンデレラ 通しリハーサル
11月 2日	(アウトリーチ) 北杜市須玉ふれあい館 ミュージカル シンデレラ 設営
11月 4日	(アウトリーチ) 北杜市須玉ふれあい館 ミュージカル シンデレラ リハーサル
11月 5日	(アウトリーチ) 北杜市須玉ふれあい館 ミュージカル シンデレラ 本番、撤去

研修生の所感

山梨大学 横森 千佳

■研修の目的

- 舞台装置の名称、使い方を覚えて実際に使えるようになる。
- スタッフマネジメントの実態を知る。
- 一つの舞台・ミュージカルが完成するまでの過程を裏方スタッフの立場から見て学ぶ。

■研修の内容と成果

- 舞台・ミュージカル・コンサートは、1人だけの力では決して成功させることはできない。監督、演者、裏方それぞれが役割を十分に果たし、力を合わせ、たくさんのお客様に見ていただくことで初めて良い舞台だと言えると感じた。
- ミュージカルについては、公演後のアンケートの集計結果を見せていただいた。多くのお客様が満足していただいたことを知り、仕事のやりがいを感じた。
- 舞台製作スタッフは、監督、演者が演技・演奏に集中し、気持ちよく過ごせるように、ホールを清潔に保つ、時間日程管理、ケータリングの用意、移動手段・宿泊施設の手配など、多岐にわたった業務をしていることがわかった。
- 常に、全員が、今よりもさらに舞台をよくしようという思いをもって、限られた時間の中で、直前まで試行錯誤した。
- 仕事を与えられるまで待つのではなく、自分から積極的に動いて、無駄な時間をつくらないようにした。
- 研修を通して、ホールの方々、山梨出身・山梨ゆかりのアーティストの方々とお会いすることができ、人間関係の幅が広がった。

■研修をこれからどう活かしていくか

- 舞台製作スタッフの時間の使い方、役割分担の仕方、仕事の正確さ速さが、舞台の進行に大きく関わるので意識したい。
- 舞台の広報の仕方を工夫して、さらに集客したい。
- 社会人として、人と接する上でのマナーや態度を今後も気を付けたい。
- 自分から行動する積極性、主体性を大切にしたい。
- コミュニケーションをとって、協力して物事を進めていきたい。
- 今回の研修をきっかけに、さらにいろいろな種類の舞台芸術制作に携わってみたい。

受入施設より

コラーニー文化ホール(山梨県立県民文化ホール) 加藤 信一

インターンシップ生の2名は、舞台製作の実務経験がほとんどなくスタートした。

最初の頃、何をどうすればよいか戸惑っていた様子であったが、日が経過するごとにスタッフやキャストとコミュニケーションが取れるようになり、それからは皆と協力して実務をこなしてきた。指示が出るとすぐに動く姿勢や、やり出した作業は完遂させる点について非常によかった。

今回の経験を活かし、今後マネージメントを担っていく立場として自らで課題を見つけ積極的に取り組むこと、提案しながら作業を進めていくことを意識して欲しい。

国内交流研修報告 … ② インターンシップ事業

派遣元

大阪経済大学
経済学部経済学科
[大阪府大阪市]



研修生 田房 康希



受入先

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール
(公益財団法人びわ湖芸術文化財団)
[滋賀県大津市]



研修期間

平成29年8月1日(火)～平成29年8月9日(水)のうち 計7日間

研修概要

- ・制作や裏方の立場から見た公演について知見を広める。
- ・買い取り公演(通常の)と自主事業の違いについて理解する。
- ・舞台芸術を理解し、事業の発展に貢献する。

日程・実施内容

実施日	内 容
8月1日	KHP(カーハーペー)見学兼字幕チェック、チラシばさみ、楽屋設営等
8月3日	GP(ゲネプロ)見学兼字幕チェック、パンフレット手売り等
8月5日	楽屋設営、ケータリング出し等
8月6日	楽屋設営、ケータリング出し、楽屋片付け等
8月7日	楽屋設営、ケータリング出し、広報用写真撮影等
8月8日	楽屋設営、ケータリング出し、訂正シール貼り等
8月9日	オペラ指揮者セミナー成果発表見学、訂正シール貼り等

研修生の所感

大阪経済大学 田房 康希

■研修の目的

- ・事業の運営について、特に裏方と呼ばれる方がどのように動いているのかを知り、どう動けばいいのかを理解する。その上で、自分自身のクラブ活動等でそれを活かす。
 - ・事業の成功のためにどのように動けばいいのかを理解する。
 - ・実際に事業を体験することで、視野を拡大する。
 - ・実際の公演のスケジュール管理について知る。
- 上記を目標、目的と設定した。

■研修の内容と成果

(舞台)制作として、研修を行った。字幕チェックやパンフレット手売りなど他ではできないことができた。また、楽屋設営、ケータリング出し(管理)をすることによって、裏方の普段は何ともなく思っているようなことであっても、重要なことであると認識することができた。楽屋設営やケータリングは演者さんに関わっているということもあり、自分が思っていた以上に考えてやらないといけないものであった。演者さんに合わせ、柔軟に対応するということがなかなかできなかったため、視野を広く持つ必要があると感じた。

また、確認不足、報告不足が招いたミスもいくつかあり、反省すると同時に、情報の共有の大切さというものを再認識した。

■研修をこれからどう活かしていくか

研修を進めていくにつれ、できることや動けることも増えてきたが、それでもなお動けていないと感じた。例えば、相手の様子や都合を考え、柔軟に対応していくこと、報告や確認など情報の共有を怠らないこと等である。前者は、演出家さんと舞台技術さんの予定を伺って細かな時間の調整をしていく職員の姿を見て感じたことである。後者はそれを怠ってミスをしてしまったという経験からである。この様な課題点を見つけることができたため、これを改善し、今後の日常生活やクラブ活動で役立てたい。またこの反省を忘れることなく、より良く仕事をこなしていきたい。

受入施設より

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 館脇 昭

オペラ「ミカド」公演、沼尻竜典オペラ指揮者セミナーの制作助手研修。何事にも真面目に取り組み仕事に対する集中力がとても高いと感じた。たいてい一度で習得し、次からは主体的に行動できていた。字幕チェック作業は細かいところまで気が付き的確に修正。一方で、シール貼りには苦戦していたようだが「お客様に渡すので」というと、以降作業がとても丁寧になった。笑顔で人に接することができれば更に良くなると思います。

国内交流研修報告…②インターンシップ事業

派遣元

新潟大学

教育学部芸術環境創造課程音楽表現コース
[新潟県新潟市]



研修生 栗林 里帆

受入先

長岡リリックホール

(公益財団法人長岡市芸術文化振興財団)
[新潟県長岡市]



研修期間

平成29年8月15日(火)～平成29年8月20日(日) 計6日間

研修概要

- ・公立文化施設(長岡リリックホール)の施設(各ホール、スタジオ等)の概要について実際に見学しながら舞台従事スタッフから説明を受け、理解を深める。
- ・公立文化施設における業務内容について習得し、実際の事業運営実務に携わる。
- ・制作事業(合唱事業)に従事。
- ・アウトリーチ活動、ミュージカルワークショップを実務体験。

日程・実施内容

実施日	内容
8月15日	研修内容・日程の説明 レクチャー：公立文化施設について 舞台実習 「長岡フェニックス合唱団」運営実務
8月16日	レクチャー：財団概要及び事業について 事業関係実務 ワークショップ(朗読会)打ち合わせ、リハーサル参加
8月17日	全体ミーティング(業務割説明) 朗読ワークショップ運営実務① 朗読ワークショップ運営実務②
8月18日	挟み込み作業、アンケート集計 ジュニア育成事業(長岡少年少女合唱団) 自主公演(19日)の業務内容打ち合わせ(業務割説明、公演事前準備作業)
8月19日	10/1「避難訓練コンサート」整理券配布業務 「はじめての落語」運営実務
8月20日	ジュニア育成事業(ジュニアミュージカル)ワークショップ 質疑応答、小レポート提出

研修生の所感

新潟大学 栗林 里帆

■研修の目的

私が大学において日々音楽を学ぶ中で音楽マネジメントの分野に興味を持ち、将来音楽マネジメント関係の仕事に就きたいと思うようになりました。このインターンシップに参加することにより、音楽マネジメントという仕事の知識・理解を深め、またインターンシップでの経験を今後の自分自身の進路決定への参考にしたいと思います。

■研修の内容と成果

今回のこの長岡リリックホールでのインターンシップを通し、非常に多くのことを学び、経験することができました。私は、このホールを小学校1年生の頃から利用してきましたが、一日目の施設案内において、自分が今まで知らなかったホールの仕組みや設備を知り、今まで使用していたホールの新たな面を知ることができました。施設だけにしても、残響カーテンやコンサートホールの座席の工夫などお客様により質の良い音で聴いてもらうための工夫がなされていると知り、普段当たり前に利用していたホールはこのようになっていたのだと改めて感じました。

また各公演のアンケート集計業務において、音楽ホールの仕事というのはただ公演を企画・運営・実施するだけでなくこのような業務も行った上で次の公演作りに取り組まれているのだと実感しました。

実務業務では、アウトリーチ活動の「朗読ワークショップ」や「はじめての落語」など実際の公演の現場で実務をさせて頂き、普段お客として公演などを見るのとはまた違った感覚で見ることができました。「朗読」や「落語」は私自身あまり見ないジャンルの公演でしたが、今回の実習で実際に公演を見てみて面白かったですし、とても新鮮でした。長岡リリックホールはこのように多方面のジャンルの音楽や作品の公演、東京フィルや文学座、文化庁などとの様々な連携事業、そして観客を交えた観客参加型のワークショップなどを多く取り入れている点においてとても魅力のあるホールであると感じました。また舞台関係のプロの方から普段はなかなか知ることのできない「舞台芸術」について説明をして頂き、私自身にとっても非常に貴重な経験でしたし、お話をお聞きして、舞台の方の公演一つ一つに対する熱意を感じました。今回のインターンシップを通し、音楽マネジメントという仕事は音楽・芸術を通してお客様に喜びや感動を与えるきっかけづくりをする素敵な仕事であると改めて感じました。

■研修をこれからどう活かしていくか

今回の研修を通し、改めて将来は音楽マネジメントや音楽・芸術に関わる仕事に就きたいと思う気持ちが強まりました。このインターンシップで学んだことについて自分なりにより知識・理解を深め、またこれからも音楽堂・劇場等での様々な公演に積極的に足を運び、可能な限り数多くの音楽・芸術に触れていきたいと思っています。大学においては、音楽の実技や小学校への訪問演奏などの地域や外部での楽器演奏を通して、音楽・芸術に常に携わってたいです。このインターンシップでの経験を、将来の進路決定に活かしていくにはどうしたら良いのか、そのために今何をすべきなのかを見据えながら残りの大学生活を送っていききたいと思います。

受入施設より

長岡リリックホール 吉田 恵子

研修生は、音楽教室の発表会やスタジオ練習等で当ホールの使用実績が多く、非常に興味を持っていた。音響・照明設備、奈落等舞台の裏側にも専門スタッフによる研修を取り入れ知識を深めてもらった。本番事業等が連続する期間だったので、実務を通して習得することが多かったようだ。マネジメントについて理解や知識を深めるだけでなく、アーティストや来場者対応、職員間のコミュニケーション、職員がどのような動きをしているのか体験し、公立文化施設で働くことに一層意欲を高めていた。

6日間という短期間ではあったが、何事にも真摯に取り組む前向きさが伝わってきた。実技経験や専門的知識を深めながら、興味と意欲を持ち続けて更に視野を広げ、将来の進路を決めていただきたい。

国内交流研修報告 … ② インターンシップ事業

派遣元

昭和音楽大学

音楽芸術運営学科 アートマネジメントコース
[神奈川県川崎市]



研修生 伊藤 美海、直木 美枝



受入先

りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館

(公益財団法人新潟市芸術文化振興財団)
[新潟県新潟市]



研修期間

平成29年8月18日(金)～8月23日(水) 計6日間

研修概要

- 公共ホールの歴史的変遷と求められる役割の変化、現状の課題とその真の原因について。
- りゅーとぴあの特徴であるジュニア音楽3教室の実態を学ぶ。
- 新潟市ジュニア合唱団が出演する合唱演奏会にスタッフ参加。
- アウトリーチセミナーにスタッフとして参加。

日程・実施内容

実施日	内 容
8月18日	公共ホール概論、りゅーとぴあ概論、求められる人材、「トスカ」合唱練習見学
8月19日	りゅーとぴあジュニア音楽3教室の事業理解と見学、団員インタビュー
8月20日	新潟県少年少女合唱団合同演奏会にスタッフ参加
8月21日	アウトリーチ概論、りゅーとぴあアウトリーチ事業の理解、アウトリーチセミナー準備
8月22日	アウトリーチの手法について、地域アーティストのアウトリーチについて、アウトリーチセミナーにスタッフ参加
8月23日	ディスカッション、アウトリーチセミナーにスタッフ参加

研修生の所感

昭和音楽大学 伊藤 美海

■研修の目的

私は昨年、石川県音楽文化振興財団でのインターンシップを経験し、地域に根ざしたホールのあり方や自主事業について興味を持ちました。

今回の研修では、公共ホールが地域住民の中でどのような立ち位置で運営されるべきか、また地域住民のニーズに応えるためにどのようなことを行っているのかを知りたいと思い、参加いたしました。また、公共ホールに求められる人材、資質を現場で働くホール職員から実際に感じ取ることで自身の進路に活かしたいと考えました。

■研修の内容と成果

・りゅーとぴあ アーツ・マネジメント研修(8月18日～8月21日)

公共ホールの歴史や概論、りゅーとぴあの事業について学びました。公共ホールの歴史を振り返ることで、現在のホールにおける課題を理解することができました。りゅーとぴあの、技術的な向上だけではなく、人間性の形成の過程としてのジュニア育成事業や、地域アーティストを支援していく姿勢、地域住民にとって魅力的で文化レベルの高い公演の企画などを実際に体感し、ビジネスとしての面だけではなく人と人をつなげるツールとして音楽と向き合うホール職員の熱意を感じ取ることができました。

・公共ホール音楽活性化 政令指定都市アウトリーチセミナー(8月22日～8月23日)

アウトリーチの理念や地域アーティストとの連携が主な内容でした。アウトリーチを通して地域アーティストを育てていくという姿勢や、ホール職員(コーディネーター)とアーティストと一緒に歩いていく姿勢に感銘を受けました。自身が小学生の時に出会っていたら音楽に対しての姿勢も変わっていたのではないかと思います。演奏ももちろん素晴らしかったのですが、楽器の説明やトークの時のアーティストの皆さんの様子から、本当に自分の楽器を愛しているのだと感じ、楽器への愛も素晴らしいと感じました。

■研修をこれからどう活かしていくか

全日程を通し、人の成長過程を音楽と共に歩んでいきたいという姿勢に感銘を受けました。特にアウトリーチの研修では都内では感じることはできない、新潟県内の連携の強さと地域アーティストを支えていく姿勢を強く感じました。首都圏では、公共の交通機関で区や市間の移動が簡単にでき、区民や市民という意識があまりないように感じますが、県内のホール同士での協力姿勢があり、そちらもとても素晴らしいと思いました。アウトリーチについてはこれからの研究テーマにしていきたいです。また、プロを目指す学生にアウトリーチの理念を理解し、広めていくにはどうしたら良いか考えるいい機会となりました。

昭和音楽大学 直木 美枝

■研修の目的

アートマネジメントについて大学の4年間で学んだことをより深め、実感のある知識にしたいと考えたためです。

特に公共ホールの自主事業について学びたいと考えました。企画の需要をどのように見極め、何を優先させて公演を制作していくのかなどについて知りたいと思ったためです。

■研修の内容と成果

公共ホールとはどのようにあるべきなのか、日本の公共ホールがどのような歴史の中で生まれたものなのかといった基礎から、ジュニアの育成やアウトリーチなどの具体的な事業についてまで幅広く学ぶことができました。また、講義を聞くだけではなくディスカッションする場面も多々あり、様々な課題を自分自身の問題として考え真剣にプログラムに参加することができました。

また、研修プログラム以外で職員の方々とお話する機会もあり、大学で行った自主企画公演に携わる中で感じていた疑問や、将来の働き方などについても相談することができました。非常に具体的なアドバイスと共に、芸術の世界で働くことの苦労と面白さを教えて頂きました。現場で日々奮闘する方々の生の声をお聞きすることができたのも大変貴重な経験だったと思います。

■研修をこれからどう活かしていくか

大学卒業後はクラシック・バレエの世界でアートマネジメントに関わる予定ですが、研修を通して浮かんだアイデアや得た知識は、分野は異なっても必ず活かすことができると考えています。アウトリーチセミナーで学んだ、アーティストとの信頼関係の築き方や対等に意見を出し合いながら共に創作に携わるという姿勢など、りゅーとぴあの職員の方々から感じた情熱とひたむきな誠実さを手本にして行きたいと思います。

受入施設より

りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 榎本 広樹

今回参加してくれた2名は、どちらも明確な意思を持っており、意欲的に参加してくれました。研修の中では、公共のホールのさまざまな役割や、それを実現していく実務を考える、多角的な視点を次々に提示しましたが、それを「他人事」ではなく、自分のこととして一生懸命受け取り、考える姿勢がありました。

卒業後は、自分の現場で、芸術と社会のより良い関係をさらに考え、実践していただくことを祈っています。

国内交流研修報告 … ② インターンシップ事業

派遣元

鳥取大学

地域学部地域政策学科

[鳥取県鳥取市]



研修生 石賀 玲花

受入先

松江市八雲林間劇場(しいの実シアター)

(特定非営利活動法人あしづえ)

[鳥根県松江市]



研修期間

平成29年8月31日(木)～9月15日(金)のうち 計8日間

研修概要

松江市八雲林間劇場を主な会場の一つとして11月に開催予定の「松江・森の演劇祭」に関する企画・制作実務の補助を中心とした研修を行った。「松江・森の演劇祭」では、松江市内の複数の会場において、国内外の劇団等による公演が多数開催され、運営には多くの市民ボランティアも関わる。そのため、出演団体、会場管理者、市民等、多様な関係者との複雑な連絡調整業務が必要であり、これらの業務の補助を行った。

日程・実施内容

実施日	内容
8月31日	オリエンテーション(劇場の成り立ち、業務について) 演劇祭掲示物の片づけと、りんごの看板作りの依頼
9月1日	「松江・森の演劇祭」事業の準備作業 DM発送作業
9月2日	「松江・森の演劇祭」事業の準備作業・のぼりと駐車場看板設置場所の検討会に参加・かやぶき交流館の見学(貸館中)
9月3日	園山土筆理事長の講話:表現コミュニケーションワークについて、 劇団あしづえの歴史、特徴、活動内容について
9月12日	のぼりの道路占有許可申請書準備 設置場所を回って、写真撮影(町内の様子を知る)
9月13日	園山土筆理事長の講話:ステークホルダー、ファンドレイジングについて、 劇場の社会包摂について
9月14日	のぼりの道路占有許可申請書準備(写真の設置場所の地図を探し、コピー) 「松江・森の演劇祭」事業の準備作業
9月15日	「松江・森の演劇祭」事業の準備作業・DM発送作業 研修のふりかえりと今後について

研修生の所感

鳥取大学 石賀 玲花

■研修の目的

将来、劇場・音楽堂等の施設で働きたいと考えており、現在関わっている県内の施設以外の活動も身をもって知りたいと思い、次のような目的で今回の研修を希望した。

- ・しいの実シアターの特徴と、劇団あしづえの歴史と考え方を理解し、今後の活動に活かす。
- ・松江・森の演劇祭の準備作業の体験を通して、劇場の運営実態を知る。

■研修の内容と成果

主な活動内容は、11月に開催される「松江・森の演劇祭」の準備作業である、DMの発送作業や看板設置の手続きなど様々だった。DMの発送先は、個人や劇場など日本全国を対象としており、職員10名程度の小さな劇場でここまで大規模な宣伝活動をされていることに驚いた。また、街中で何気なく目にする看板やのぼりを設置するために、設置予定場所の写真を撮って回り、そこが分かる地図を探し、役所へそれらを提出して、ようやく許可が下りるということを、実際に自分も一緒に作業させてもらい、その大変さが身に染みた。

また、しいの実シアターと劇団あしづえについて、理事長である園山土筆さんから直接、お話を聞くことができた。劇団あしづえは、「演劇を人々の暮らしの中へ」浸透させたいという理念を昔も今も変わらず掲げ続けており、周りに左右されないその想いに圧倒される場面が何度もあった。また、宣伝のためにチラシを配布しても、その効果はわずか0.2～0.5%しかなく、チケット購入に繋がらないというチラシの実行率のこと、多くの人が集まって一つのことを実施するときには、まず始めに定義付けをしなければ、集まった人の数だけ解釈の仕方があるため、それらを統一させることの重要性など、マネジメントについても多くのことを学んだ。

このような研修を通して、私は、劇場という場所を基礎から知ることができ、自分が今後進むべき道の輪郭が見えたように思う。

■研修をこれからどう活かしていくか

残り2年半ある大学生活ですべきことが具体的に見えたので、「劇場法」(通称)の理解、作品の良し悪しに関わらず様々な演劇作品を鑑賞し演劇について学びを深めるなど、大学生の間にはできることは在学中に終わらせられるような生活を日々、送ろうと思う。

また、これから劇場に関わっていくために、「全国劇場・音楽堂等アートマネジメント研修会」のような、さらなる学びの場の紹介をしていただいたので、その貴重な機会も有効に活用していきたいと思う。

受入施設より

松江市八雲林間劇場(しいの実シアター) 有田 美由樹

高校生時代から地元劇場の「倉吉未来中心」で、ボランティア活動をしており、劇場勤務への強い思いが学びの根本にあった。しいの実シアター、あしづえ、演劇祭についての歴史、内容、失敗談を集中して聴き、2時間半にわたる理事長・園山のマネジメント論を「大学の講義よりおもしろい」と満足していた。工夫する力や協働で人と仕事をするセンスを持ち合わせており、当劇場の人材として受け入れたいと思ったほどだった。

国内交流研修報告 … ② インターンシップ事業

派遣元

大阪市立大学

文学部言語文化学科表現文化コース
[大阪府大阪市]



研修生 津本 杏里、松田 みなみ



受入先

八尾市文化会館(プリズムホール)

(公益財団法人八尾市文化振興事業団)
[大阪府八尾市]



研修期間

平成29年9月12日(火)～平成29年9月21日(木)のうち 計9日間

研修概要

- ・八尾市文化会館(プリズムホール)において、どのように地域に密着した活動が展開されているかについて、活動を支える組織体制の在り方なども含めて研修を行う。
- ・アートを通じて地域に貢献するためのプログラムにおける、企画、立案、広報、集客活動について研修を行う。
- ・アート創造に携わる人々と実際にアート活動を支える施設組織、さらにアートを受容する人々3者を生産的に結びつけるための日常活動の実際について学ぶ。

日程・実施内容

実施日	内容
9月12日	インターンシップキックオフ、施設説明と見学、事業の説明、SNS アップ
9月13日	大ホールバックステージツアー、館長によるホール運営概論、プリズムホール全体会議参加、FM ちゃお原稿読み練習・収録
9月14日	HP情報アップ、チラシ折、組織機構・法人管理・施設管理について講義
9月15日	やおフェスについてレクチャー、FM ちゃお出演、アンケート入力、窓口体験
9月16日	窓口体験、役所回覧セット作成、やおフェス事務作業
9月17日	やおフェス事務作業、台風のため午後から中止
9月18日	やおフェスイベント会場準備、チラシセット作成、SNS アップ、やおフェスイベント表方・見学
9月20日	やおフェス片付け、体験レポート SNS アップ、DM 封入作業、アンケート入力
9月21日	DM 封入作業、研修レポート SNS アップ、館長による総括

研修生の所感

大阪市立大学 津本 杏里

■研修の目的

表現文化コースでは、社会包括型アーツマネジメントを学ぶ授業が開設されています。また、私自身、将来は劇場やコンサートに関わる仕事がしたいと考えているので、実際の現場を体験したいと考えています。そこで、公立文化施設ではどのように芸術文化を発信しているのかについて実地に研修していきたいと考えました。また、アートを通じて地域に貢献するためのプログラムにおける、企画・立案・広報・集客活動について実践的に研修を受けたいと思い、この研修事業に申請しました。

■研修の内容と成果

最初に講義形式で公立文化施設の使命・役割についてレクチャーを受けました。八尾プリズムホールでは、子供や高齢者、障がい者の方々など一般的には芸術文化に触れる機会の少ない人々にいかにしてその機会を多く提供していくかについて、職員の方々が熱心にイベントの企画をされていました。またその後、実際にイベントに関わることを通して、実践的にアートマネジメントについて学びました。やおフェスのプレイベントでは会場の設営やチケットのもぎり、公演中の入退場者の確認など、実際にイベントに関わらせていただくことで、イベントを滞りなく遂行するためにはどのような工夫が必要なのかを教えてくださいました。また、このインターンシップでは特に広報の仕事についてよく関わらせていただきました。

FMちゃおという地元のラジオ番組に出演することやFacebookやインスタグラムなどでのSNSで情報を発信することを通して、八尾プリズムホールの情報をいかに効率的に伝えていくかについて実践を通して学ばせていただきました。

■研修をこれからどう活かしていくか

今回のインターンシップでは、職員の方々の芸術文化への熱意に非常に刺激を受けました。もともと、劇場やコンサートに関わる仕事がしたいと考えていましたが、さらにその思いが強くなりました。また、大学の後期においても実践的なアートマネジメントについて学ぶ内容の演習があります。学生が実際にイベントを作っていく授業なので、そこでこのインターンシップで学ばせていただいたことを活かしていきたいと思います。また、就活においてもこの経験を活かして励んでいきたいと思っています。

大阪市立大学 松田 みなみ

■研修の目的

中学生の時から部活動やサークルで演劇を続けてきたことで、今後も演劇という分野に携わり続けたいと考えていた。しかし、裏方のスタッフや役者という立場での関わりしかなかったため、運営や劇場という立場ではどのような知識、スキルが必要であるかを知らなかった。よって、自分が現在興味を持っている分野の業界がどのようなものなのかを知ること、また、現在コースで学んでいる芸術の分野の勉強がこのような劇場運営という仕事において、どのような意味を持つのかを知ることができればと考えた。

■研修の内容と成果

八尾プリズムホールでは、公立の劇場であるという立場をスタッフの方全員が意識したうえで様々な事業が行われていた。民間とは異なる役割を持つ公立劇場として、芸術文化によって市民の方々が心豊かに暮らせるように、という大きな目標のもとで、市民の方々が平等に芸術文化に触れる機会を作り出していた。詳細な事業計画を元にどのような理念からどのような内容の事業を行うかが明確に決められており、毎年様々な工夫を凝らした事業が生み出されていた。民間と公立の劇場の違いは曖昧にしか理解していなかったが、具体的な事業の差などをスタッフの方々からの講義で、また、実際に体験したうえで理解することができた。講義では、なぜ芸術文化を多くの人に触れてもらう必要があるのか、そのためにプリズムホールだけでなく世界を含めて公立劇場ではどのような事業が行われているのかについても学ばせていただくことができた。

また、実際に八尾市文化会館の開館30周年記念事業として2018年に行われる『やおミュージックフェスティバル2018』のイベントのスタッフとしても参加させていただいた。イベント前の会場準備や、チケットのもぎりなどの作業をさせていただき、イベント本番も見学をさせていただいた。スタッフの方々の丁寧な準備と、イベントの出演者の方々の、観客の方々が本番中ずっとなごやかな様子で楽しんでおられるのを見て、出演者や観客の方々への心配りの重要性を感じた。また、観客の方の前に立って気を張ることの大変さも実感した。

■研修をこれからどう活かしていくか

研修の中で、自分の勉強不足を実感した。将来自分の演劇活動を活かして劇場など、演劇と関わる仕事に就きたいと考えるのならば、演劇そのものの歴史や現在の動き、また、公演や劇場の運営に関する知識も習得しなければいけないことがわかった。今後の課題として、勉強を重ねていきたいと思う。

また、与えられた仕事に力を入れることは当然だが、もっと手早くできるようにならなければと感じた。ひとつの作業に熱中しすぎて時間がかかりすぎてしまったことがあり、ほかの仕事に取り掛かるのが遅くなってしまった。すべきことがいくつもある状態ならば、バランスよく作業をこなしていくことも大事であると感じた。

最後に、やおフェスのイベントのスタッフとして参加させていただいたが、イベントが終わるころになって体調を崩してしまい、スタッフの方々に大変迷惑をかけてしまった。自分の体調管理の甘さと、イベントの大変さを感じた。仕事に責任持つということは、自分の体調管理も必要になるということで、今後、気をつけなければならないことだと考える。

9日間という短い期間だったが、非常に多くのことを学ばせていただいた。スタッフの方々の事業への真剣で、心のこもった姿勢を間近で見せていただくことで、自分の仕事への姿勢を考えるきっかけにもなった。また、公立劇場に関する知識も多く得ることができた。今後、自分が将来どのような場所で、どのように働きたいのか、明確なビジョンを持ったうえで、生活を送っていききたい。

受入施設より

八尾市文化会館(プリズムホール) 中神 まゆみ

プリズムホールがこの交流事業の依頼をいただいて、多様な劇場の実際を学んでもらおうと、できるだけ全セクションでインターンシップ生を受け持つように計画をした。そして、まず館長から「この研修を通して研修生には『公立劇場の使命とは何か』について深め、自分なりの答えを見つけてもらう」という課題が設けられた。研修生は様々な現場の講師から様々な業務を体験し、最終的には研修生なりの答えとして「公立劇場とは利益重視ではない芸術文化を振興し、芸術文化に興味がある方だけでなく、様々な人たちが芸術文化に触れる機会の提供を行うことで心豊かな暮らしを創造する場である。また地域に密着した活動に触れることで地域の発展・コミュニティを創造する場でもある」という回答を得ることができた。研修を通して現場を経験し、公立劇場の使命を深めてくれたと思う。

国内交流研修報告…②インターンシップ事業

派遣元

上野学園大学

音楽学部音楽学科グローバル教養コース
文化創造マネジメント専門 [東京都台東区]



研修生 浅野 恵梨香、齊藤 瑞



受入先

東京芸術劇場

(公益財団法人東京都歴史文化財団)
[東京都豊島区]



研修期間

平成29年10月2日(月)～平成29年10月13日(金)のうち 計10日間

研修概要

主催事業であるシアターオペラ「トスカ」、「クラシカル・プレイヤーズ東京演奏会」の制作現場を通して、公共劇場がどのような創造活動を行なっているのか、また地域の文化拠点として、地域活性化事業についての課題やミッションについて研修を行う。

日程・実施内容

実施日	内 容
10月2日	オリエンテーション、オペラ「トスカ」：立ち稽古立会い、送付状作成、ケータリング準備、招待状印刷
10月3日	オペラ「トスカ」：立ち稽古立会い、出演者フィッティング見学
10月4日	オペラ「トスカ」：立ち稽古立会い、記者会見立会い、記者の方々のアテンド、リハーサル室片付け
10月5日	オペラ「トスカ」：舞台を組んでの立ち稽古立会い、出演者の方々のアテンド
10月8日	オペラ「トスカ」：立ち稽古(ランスルー)立会い、出演者の方々のアテンド
10月9日	「クラシカル・プレイヤーズ東京演奏会」：リハーサル立会い、リハーサル室準備、ケータリング準備、ライブラリアン業務補佐
10月10日	「クラシカル・プレイヤーズ東京演奏会」：リハーサル立会い、ライブラリアン業務補佐
10月11日	「クラシカル・プレイヤーズ東京演奏会」：リハーサル立会い、ライブラリアン業務補佐
10月12日	「クラシカル・プレイヤーズ東京演奏会」：リハーサル立会い、ライブラリアン業務補佐、リハーサル室片付け
10月13日	「クラシカル・プレイヤーズ東京演奏会」：本番、舞台設営、楽屋準備、チラシ組み作業、終演後舞台等のバラし作業

研修生の所感

上野学園大学 浅野 恵梨香

■研修の目的

劇場や音楽堂での事業における制作実務の体験を通じ、プロデューサーとして現場でどのような資質が必要になるのかを学ぶ。

■研修の内容と成果

今回の研修では公演のリハーサルを間近に拝見させていただける機会が多く、改めてアーティストやプレイヤーの存在の大きさを実感することができた。そこで私はプロデューサーやスタッフが事業を行う中で必要なことの一つとして、アーティストやプレイヤーに対してパフォーマンスのしやすい環境を作るということがあるのではないかと考えた。現場ではアーティストやプレイヤーにとってより良い活動ができるようスケジュールの調整やアテンドなどの業務をすることだけではなく、スタッフとアーティストやプレイヤーとの信頼関係を築き、現場の雰囲気の良いものにすることでパフォーマンスのしやすい環境作りになり、より良い公演作りへ繋がっているのだと実感することができた。

また、今回の研修で一つの事業を実現させるためには多くの人々の協力が必要となり、その上で事業が成り立っているということを改めて実感した。現場に至るまでの準備や公演までに多くの人が携わり、良いものを協力して作り上げていく様子を現場で拝見することができ、私もこういった事業や公演に携わりたいと思うことができた。

■研修をこれからどう活かしていくか

実際の現場で研修を行わせていただいて自分が学んだことや感じたことをより自分のものにし、将来アートマネジメントの現場に携わることができた時、今回学んだことを活かすことができるようにしたい。

今回の研修では先を見据えた行動をすることができず、自分の至らない点を認識することができた。その点を改善することができるよう普段の生活の中で気をつけて行動するようにしたい。

上野学園大学 齊藤 瑞

■研修の目的

公共ホールの職員の方々がどのようなことを感じ、どのような想いで仕事をされているのか、音楽事業の企画制作とはどのようなものなのかを知ること。また、実際の劇場の現場にて業務を経ることで、座学からの知識を可視化し、理解度を高めるために、今回の研修に参加しました。

■研修の内容と成果

今回初めて、オペラの制作現場を経験させていただきました。様々な分野のプロフェッショナルな方々が、一つになって作品に取り組まれている現場を見ることができたのは、何よりの経験となりました。公演を行うにあたり沢山の方々関わっていること、出演者を支えることはもちろん、一緒に現場で働く方々が働きやすい環境作りを気配ること。例えば飲み物一つ出すにしても気遣いがあり、そうした思いやりや気配りから、信頼関係が生まれるということを知ることができました。

■研修をこれからどう活かしていくか

2週間という短い期間ではありましたが、様々な方達の仕事の現場に立ち会い、教わることができたことはとても刺激になりました。職員の方々の業務は、幅広く多岐にわたり、自分の知識の面や、社会で生きていく上で何が足りないのかを考え、見直す機会となりました。芸術活動を支える上で大切なことは、全体のことに目を向けつつ、将来を見据え想像力を働かせることだと知り得ることができたと共に、情報が多様化し、文化活動の社会的役割も拡大している中で、今何ができ、何を求められているのか、またどのようなことをしたいと考えているのか、行動できる範囲で実行していくことが大切だと感じました。

今回の研修では、まだまだ勉強不足であることを痛感すると共に、これからの進路を考える上でやるべき課題を明確にすることができました。今後は、もっとこれからの劇場や音楽について勉強するために、できるだけ多くの演奏会に接して感性を磨いていこうと思います。また、芸術における時代感覚や情報収集力をつけ、色々な知識の面でも積極的に学びを深めていきたいと思っています。

受入施設より

東京芸術劇場 中村 よしき

2週間という限られた時間の中で、オーケストラ公演(オリジナル楽器)、オペラ制作(立ち稽古)という音楽制作でも重要な2つの公演実務に携わり、前者ではリハーサルの対応を中心としてライブラリアン補助や舞台でのセッティング、表周りの当日公演の運営補助の実務を通じ業務の補助を体験してもらった。

今回の研修で得た経験が、おふたりの将来に少しでも役に立つことを心から願っている。

国内交流研修報告 … ② インターンシップ事業

派遣元

神戸大学

国際文化学部国際文化学科現代文化論講座
[兵庫県神戸市]



研修生 安川 真佑



受入先

兵庫県立芸術文化センター

(公益財団法人兵庫県芸術文化協会)
[兵庫県西宮市]



研修期間

平成29年10月11日(水)～平成29年12月16日(土)のうち 計7日間

研修概要

拠点劇場である兵庫県立芸術文化センターにおいて、音楽、演劇、普及事業等の多種多様な自主事業の現場で、公演をどのように企画・制作・実施しているかを理解・経験することにより、今後、劇場・音楽堂等の活性化に貢献する人材となることを目指す。

日程・実施内容

実施日	内 容
10月11日	ワンコイン・コンサート 立会い
10月17日	チラシデザイン打ち合わせに同席 わくわくオーケストラ教室 公演鑑賞 LALALAにしきたミュージシャンコンテスト 立会い
11月 7日	バックステージツアー 立会い ワンコイン・コンサート プログラム作成
11月10日	ワンコイン・コンサート 立会い・プログラム作成
12月 8日	ワンコイン・コンサート 立会い 林ゼネラルマネージャーによるレクチャー
12月15日	ピッコロ劇団ファミリー劇場 公演準備・GP見学
12月16日	ピッコロ劇団ファミリー劇場 立会い

研修生の所感

神戸大学 安川 真佑

■研修の目的

アートマネジメントの現場に足を運び、クラシックコンサートや演劇、地域貢献活動などといった様々な事業の企画や広報活動がどのように行われているかを知り、また実際に公演を鑑賞することで、専攻分野である文化政策に関する理解を深めることを目的とした。兵庫県立芸術文化センターは数ある公共ホールの中でも積極的な自主事業を展開している為、その現場に立ち会いたいと考え、研修の場として志望した。

■研修の内容と成果

7日間という限られた期間の中で、普及事業であるワンコイン・コンサートやバックステージツアー等に携わらせていただき、お客様に楽しんでいただくにはどうすれば良いのか、何が 필요한のかを現場の温度で体感し、考えることができた。特に、3日間にわたって立ち会ったワンコイン・コンサートにおいては、プログラム作成を一任していただき、お客様にアーティストの魅力を分かり易く伝えるにはどう工夫すれば良いか、ということをも自分なりに考えられたと思う。

また、ミュージシャンコンテストやクリスマスイベントでは、地元西宮の住民の方々との連携事業の現場を見せていただき、「住民の集まる広場」としての公共ホールの役割を理解することもできた。上質な芸術作品を上演するだけでなく、公共ホールが地域に貢献することの重要性もこの研修を通して学んだことである。

■研修をこれからどう活かしていくか

兵庫県立芸術文化センターでの研修で学んだ最も重要なことは、企画・広報活動・公演のすべての段階において、お客様に楽しんでいただく為には何が必要かということを考えながら行動するということである。今回現場で学んだこれらのことを活かし、これからの大学でのアートマネジメントに関する研究にも取り組んでいきたい。

また今年就職活動が控えていることもあり、この経験を将来的にも活かせるよう、公共ホール等で働く道を模索していきたいと思う。

受入施設より

兵庫県立芸術文化センター 梶原 由美子

研修生は、公共ホール等のスタッフとしての経験がなかったが、多種多様な自主事業の現場で、いろいろな体験をしてもらった。

7日間という短い期間で、ワンコイン・コンサートや地域関連の公演など普及的な事業や音楽、演劇公演の企画・制作・実施の現場体験を通じて、お客様に楽しんでいただくために何が出来るのかを考えながら行動をすることの大切さを学習してもらえたと考えている。この実体験を今後の活動に役立てていただきたい。